

 **GOOD DESIGN AWARD 2023**

2023 年度グッドデザイン賞

審査委員チュートリアルブック

この度はグッドデザイン賞審査委員をお引き受けくださりまして誠にありがとうございます。
グッドデザイン賞では「よいデザインに込められた思想やしくみ」などを世の中に伝えていくと同時に、それらデザインから導き出される新たな可能性を発見・伝達することにより、次なる社会への推進役となるべく活動をしております。審査委員の皆様におかれましては、その立役者として審査のみならず当会が企画する様々な場においてお力添えいただきたいと考えております。

本書ではグッドデザイン賞の成り立ちや考え方、実際の審査の仕組みなどについてまとめております。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

目 次

1	グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール	4
2	審査委員のタスクとミッション	4
3	審査の考え方と方法	6
4	審査の詳細	7
	4-1. 基本的なルール	7
	4-2. 一次審査	7
	4-3. 二次審査	9
	4-4. 共有（発表と表彰）	14
	4-5. その他	14
5	審査委員会推薦	15

アウトカムがあるデザイン

今、私がつくっているものは誰のためにつくっているのか？

今、私がおおうとしている製品の素材や成り立ちは社会にとって良いのだろうか？

今、私の目の前にあるものは、自分にどんな力を与えてくれるのだろうか？

デザインという言葉が多くの場面で使われる時代になった今、私たちものを創り出せる人・企業・産業は、デザインをすることを自負して、同じ方向に向かって進んで行っているのでしょうか？

正解の無い複雑な世の中に対して、デザインは何が出来るのでしょうか？

ものづくりの裏には、沢山のコトのデザインが必ず存在していますし、

コトのデザインを達成するために、必ずものづくりは存在します。

可能な限りアイデアの始まりから辿ってアウトプットまでを評価するグッドデザイン賞として、モノとコトのデザインという二元論で語るのではなく、「アウトカムがあるデザイン」というテーマのもとにさらに進化をしたいと思います。

現在では、余っているものを足りないところに届けることが情報のデザインによって可能になり、伝統的な手法やその地域だからこそその知恵が、伝承されたデザインとして高く再評価され始めています。

デザインを大量生産・大量消費するサイクルではなく、沢山の良質なデザインを沢山の人に届けることも、デザインを必要とする人に必要な量だけ届けることも可能になりました。

また、企業の評価基準も変わり、社会に貢献することで経済効果が示せる時代にもなりました。

そんな時代だからこそ、グッドデザイン賞はデザインに関わる人や企業、団体などが生み出したアイデアに目を向けて読み解くことで、これからのデザインと産業・暮らし・社会が共に進むべき方向を見出す役割に挑戦したいと思います。

ソーシャルデザインという言葉が多くの場で使われるようになった20年前、ナラティブ=物語という社会的意義を求めた10年前、パーパスを企業価値やブランドとして定義した近年、こうした時系列の上に立ちながら、いまデザインに関わる全ての人が進むべき北極星を「アウトカム」として、皆さんのデザインを通して議論し見つけてまいります。

多様な視点や課題意識から生み出されたアイデアに満ちたデザインに出会えることを、審査委員一同楽しみにしております。

2023 年度グッドデザイン賞 審査委員長 齋藤 精一

デザインの意思

私たちの生きるこの世界は常に流動的で変化に富み、潮流のようなうねりによって物事の価値、文化、人々の興味が常に移り変わっています。

デザインは、人と事物と周辺環境のより良い調和を見つけるためにあると考えると、いま私たちはどのようにそれらが調和した風景を思い描くべきでしょうか？

経済を牽引する産業に貢献したデザインの顕彰制度として始まったグッドデザイン賞は、その長い歴史の中で多様な世相を反映して変容しながら、時代時代の価値観を写し出す「ものさし」のような役割を担ってきました。我々が審査を担うデザインの事物には、企業や作者の想いや願いなどが宿っています。そうした「意思」はデザインを構成する要素の根幹となり、製品や取り組みを力強く駆動させる力となります。意思は取組の規模によって良し悪しを判断されるものではなく、例えば、身の回りのささやかな幸せを叶えるものであったり、実直な製品の適正進化であったり、自然環境や地球に暮らす全ての動植物への思いやりであったりと様々です。私たちはそうした意思の尊さを積極的に読み取りたいと思います。

また、意思の価値が重要視されると同時に、その意思が適切な方法、質の高い技術で実現・実装されているかどうかも極めて重要です。良いデザインとはプロジェクト全体を表す寛大な視野と細部にフォーカスされた飽くなきこだわりを併せ持つものです。

今年度もグッドデザイン賞を通して多様な願い、想い、提言に出会えることを楽しみにしています。

2023 年度グッドデザイン賞 審査副委員長 倉本 仁

デザインの力

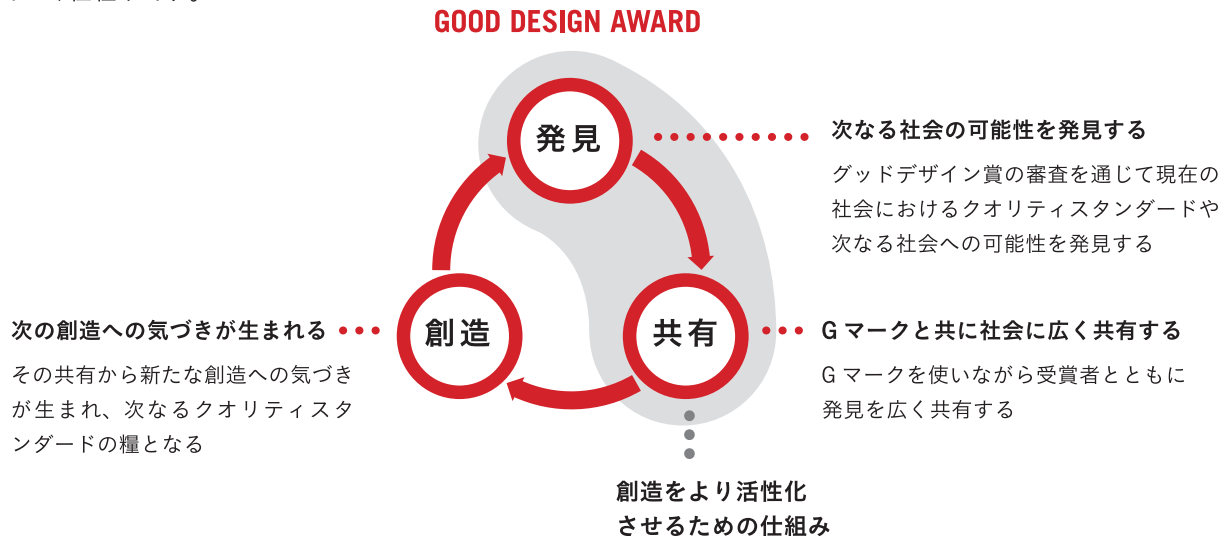
「デザインの力を信じているか」とかつて聞かれたことがあり、その時、私は「信じている」と即答しました。でも今、本当にそうだろうかと思いつく自分もいます。私が育った子供時代（1980 年代）は今よりも、なんだか明るい未来に向かって進んでいるというような漠然とした感覚があったように思うのです。そしてその中に新しいデザインと、そこから生まれたムーブメントがありました。今、私たちの子供たちが生まれ育っているこの時代は、未来に向かって夢が持てる状況なのか、新しいデザインによって明るい未来を見せることができているのか。世界中を席卷したパンデミックの波。未知のウィルスの恐怖もさることながら、私たち自身が課す行動制限によって元気を失っていく社会。もう起こらないとどこかで信じていた平和神話を打ち破る戦争の恐怖。じわじわと押し寄せる気候変動と災害。未来はもっと今より明るいなんて示せるのだろうか。そんな現状が私たちに突きつけられています。

でもモノを作り出す者として、もう一度、今この時代だからこそ「デザインの力を信じている」と言いたい。グッドデザイン賞は新たなテーマ『アウトカムがあるデザイン』。今年の成果を通して次年度のテーマを紡ぎ上げていくという試みが今年度からはじまります。常に今は過去から未来への通過点です。それぞれに信じ、望む未来を自分で手繰り寄せるための手段としてのデザイン。それを多くの人と共有し、未来を模索する場であって欲しいと思います。

2023 年度グッドデザイン賞 審査副委員長 永山 祐子

1 グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール

グッドデザイン賞は、様々な展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした総合的なデザインの振興活動です。グッドデザイン賞は単に「よいデザインを選ぶ」のではなく、以下の3つの循環を通して応募者とともに協働することにより、次なる社会の創造へ繋げていく仕組みです。



グッドデザイン賞の種類と位置づけ



2 審査委員のミッション

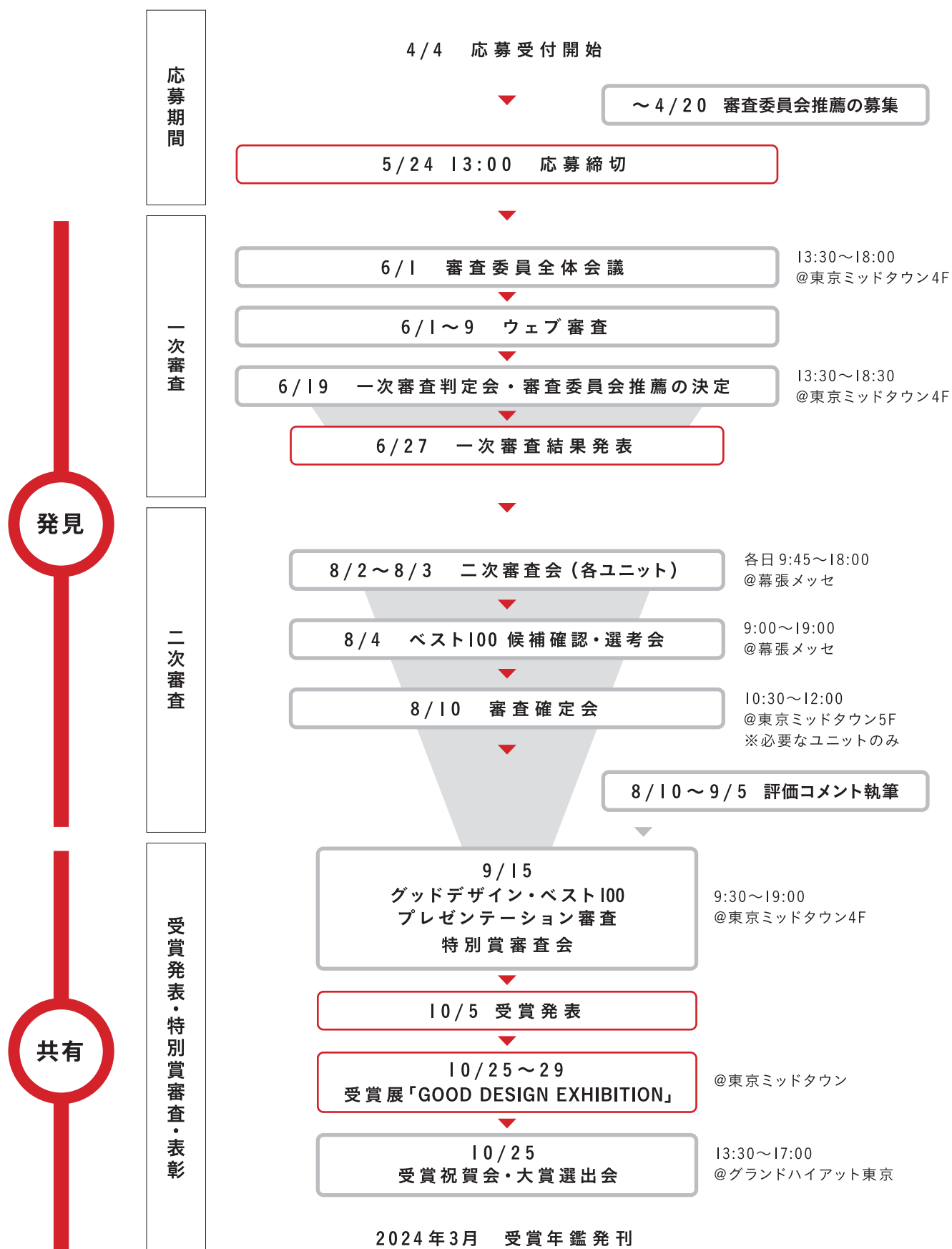
発見 = 審査

- グッドデザイン賞の審査（5～12ページ参照）
- 審査委員会推薦候補の推挙（13ページ参照）
- グッドデザイン・ベスト100 および 特別賞の審査（9～11ページ参照）
※リーダーのみ

共有 = 発表・表彰 ほか

- 審査の評価 および アドバイスコメントの執筆（12ページ参照）
- 審査報告会への出演（12ページ参照）
- 受賞祝賀会 および 大賞選出会への出席（12ページ参照）

おもなスケジュール



3 審査の考え方と方法

【審査の基本的な考え方】

1. グッドデザイン賞ではデザインを「人と社会、自然環境との調和を常に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を描き実現化する行為」と考えます。
2. デザインに込められた思想やしくみが「今後の社会において起点となりうるものであるか？」を最重要視します。
3. 社会を推進することを目的に「今後の展開への期待や秘められた可能性」も含めて審査します。

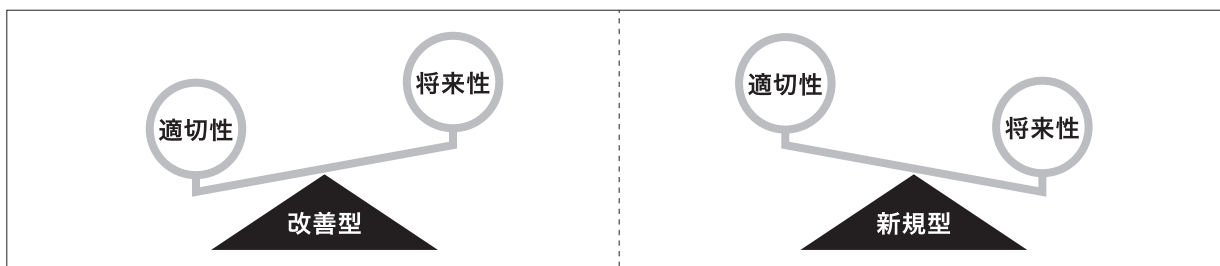
【審査の視点】

この基本的な考え方をもとに「人間」「産業」「社会」「時間」という4つの視点から応募対象を観察し、総合的に判断してください。

人間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 使いやすさ・分かりやすさなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか○ 安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための配慮が行われているか○ ユーザーから共感を得るデザインであるか○ 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか
産業的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新技術活用や創意工夫によりたくみに課題を解決しているか○ 的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか○ 新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか
社会的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新しい作法、ライフスタイルなど、新たな文化の創出に貢献しているか○ 持続可能な社会の実現に対して貢献しているか○ 新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか
時間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか○ 中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか○ 時代に即した改善を継続しているか

【審査のウエイト】

グッドデザイン賞に応募される対象には大きく分けて「十分な実績を積んだ改善型」と「全く新しい新規型」の2種類があります。改善型については「デザインの適切性」を重視し、新規型については「将来の可能性」を重視して審査を行ってください。ただし、新規型においてもデザインとしての品質や魅力を伴わないと判断する場合はグッドデザイン賞にはなりません。

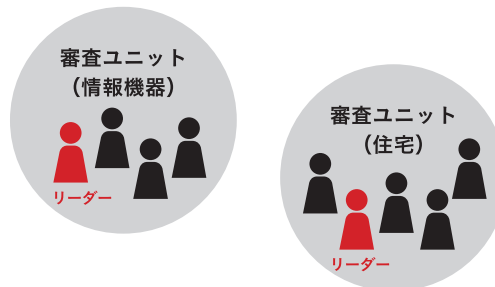


4 審査の詳細

4-1. 基本的なルール

1. 審査ユニット

グッドデザイン賞の審査は、1チーム4～5名からなる「審査ユニット」を組み、そのチーム毎に割り当てられた応募対象を審査します。それぞれの審査ユニットには取りまとめを行う「リーダー」をおきます。リーダーは審査委員長・副委員長が選任します。



2. 自身が関与した対象への審査介入禁止

審査委員長、審査副委員長、審査委員は、審査委員自身がデザインまたはコンサルティングした審査対象を審査することはできません。関連情報の提供を含め、その対象の審査に関わることを一切禁止します。

3. 守秘義務

すべての審査委員は、審査開始以前に主催者に守秘義務に関わる誓約書を提出し、審査対象に関わる機密情報ならびに審査経緯など、審査を通じて知りえた秘密情報を第三者に漏らすことを一切禁止します。

4-2. 一次審査

■ 審査委員全体会議

今年度の全体方針や具体的な審査方法、方針等を確認するための会議です。

お
願
い
事
項

1. 審査方針の策定

担当ユニットに応募された対象のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査の方針を策定してください。

2. ヒアリング審査実施方針の検討

審査委員会が必要と認める応募対象に関してのみに、説明ないしはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施します。ユニットとしてヒアリング審査を実施するか否か、実施する応募対象の選び方、実施の方法などについて検討し、一次審査判定会の際に決定できるよう準備をお願いします。

3. 審査委員会推薦対象の検討

審査委員会推薦候補のリストを確認し、一次審査対象を見た上で、さらに推薦候補があるかどうか、検討してください。

■ ウェブ審査

一次審査判定会に向けた個人審査です。期日までに「審査サイト」に個別でお伝えするIDとパスワードでログインしていただき、審査をお願いします。

1. 「〇×」の評価入力（必須）

担当ユニットの応募対象情報を確認の上、審査方針および審査の視点と照らし合わせた上で、各応募対象に「〇×」の評価を記入してください。

2. コメントの入力（任意）

「〇×」の記入と併せて他の審査委員に対して伝達したいことがある場合は、その内容をコメント欄に記入してください。

■ 一次審査判定会

「二次審査として現品を審査する必要性のあるものを抽出すること」を目的に、一次審査の可否の判定を行う会です。

1. 一次審査の可否判定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の一次審査結果を確定してください。中国・台湾・韓国からの応募については、それぞれの国・地域からの審査委員による一次審査評価およびコメントが表示されています。現地特有の事情などの勘案が必要なものについては、十分に検討をお願いします。

2. ユニット移動対象の検討

応募対象のリストを確認した上で、「審査ユニットを移動させた方がよい」と判断できるものについては、移動予定先の審査ユニットと相談の上、その方針を決定してください。ただし、応募されたカテゴリーは「重視して欲しい点に関する応募者からの宣言」でもあるため、なるべくこの意志を尊重してください。ユニット移動に関しては以下の基準をもとに行ってください。

A. 応募対象の内容および主旨が担当する領域と明らかに違うもの

B. 当該ユニットでは評価が期待されないが、他のユニットでは評価される可能性があるもの

3. 追加資料を求める対象、または特別な審査を行う対象の決定

ヒアリング審査や現地審査、または動画等による追加資料の確認など、特別な審査を行う必要が認められる応募対象を決定してください。

4. 審査委員会推薦対象の決定

審査委員会推薦候補のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、ユニットとして審査委員会推薦に選定する対象を4件以内で確定してください。

グッドデザイン賞の審査は「応募対象の現品を確認して判断する」ことを原則としていますので、一次審査は「明らかにグッドデザイン賞の水準ではないと確実に判断されるもの」のみを不通過としてください。判断基準は以下です。

【不通過判断基準】

1. グッドデザイン賞の理念から逸脱している

社会的な道義や倫理に反するものや社会的な誠実さに欠けるものなどについては不通過としてください。

2. 応募ルールに抵触する恐れがある

「2023年3月末までにユーザーが購入・利用できる」という応募条件等を明らかに満たし得ないと推測できるものは不通過としてください。

3. 価値や品質が明らかに低いと推測されるもの

品質や価値の程度が明らかに低いと推測されるものは不通過としてください。

■ 事務局による判定結果の確認

一次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議の上、審査結果を確定します。

4-3. 二次審査

■ 二次審査会

審査会場に設置された応募対象の現品（搬入が困難な対象は代替物）を確認し、グッドデザイン賞の合否判定を行う会です。

お願い事項

1. 二次審査の合否判定

二次審査を通過した対象は、審査確定会を経てグッドデザイン賞受賞内定となります。応募対象現品確認やヒアリング審査（後述）等を踏まえ、各応募対象の二次審査結果を確定してください。

2. ベスト 100 候補の選定

グッドデザイン賞では「未来を示唆するデザイン」として評価の高い受賞対象 100 件を「グッドデザイン・ベスト 100」として公表し、この中から特別賞を選出します。二次審査会の結果を踏まえ、グッドデザイン・ベスト 100 候補の選出を行ってください。

3. アドバイスコメントを行う対象の抽出

応募者に対して今後の「気づき」を提供するため、その合否にかかわらず応募者に対してアドバイスコメントを伝達しています。アドバイスコメントを行う対象の抽出を行ってください。

4. アドバイスコメント・評価コメントの執筆担当決め

グッドデザイン賞を受賞したすべての対象について「どこがよいデザインであるか」を審査委員の評価コメントとして公開します。上述のアドバイスコメントと併せて執筆する担当の割り振りを行ってください。

5. ベスト 100 候補の確認および選定（リーダーのみ）

審査会 3 日目に審査委員長・副委員長、各審査ユニットリーダーによってベスト 100 候補の確認を行います。各リーダーは自身のユニットのベスト 100 候補について、選定理由を説明してください。その後、合議でベスト 100 を選定します。

審査方法

二次審査会では様々な特性を持つ応募対象の現品が設置されるため、審査ユニットによって適切な審査方法は異なります。リーダーを中心に審査方法を協議し、適切な方法で審査を行ってください。なお、審査においては必ず「合議によって合否の決定」を行ってください。以下に通常想定される審査方法を示します。

1. 応募対象の確認および個別投票

各審査委員は個別に応募対象現品またはその代替物と応募シートを確認し、優れたデザインと認める対象に投票を行います。

2. ヒアリング審査に向けた事前調整

審査 2 日目にヒアリング審査を実施する場合は、確認・質疑するポイント等について調整を行います。

3. ヒアリング審査の実施

指定の時間に応募者からの説明・プレゼンを受け、質疑応答を行い、応募対象への理解をさらに深めます。

4. 合議による合否の決定

個別投票結果およびヒアリング審査結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で合否を決定します。

5. ベスト 100 候補の選定

二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト 100 候補の選出を行います。

二次審査会では応募対象の特性に合わせて様々な審査を行います。以下に示したものの以外であっても、必要な場合は自由に審査を設定できます。

1. ヒアリング審査

応募された対象についてより深く理解するため、審査委員会が必要とする対象を指定して、応募者に説明またはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施することができます。二次審査会2日目の実施を原則としますが、別途場所と時間を設けて実施することもできます。応募対象1件につき5分～15分の時間設定とし、件数に応じて調整します。応募者の希望や申請に基づく実施はありません。ヒアリングは、オンライン（zoom）で実施します。

2. 未発表審査

グッドデザイン賞では二次審査会の段階において開発途中（発売前等）の製品であっても応募することができます。応募者の希望があった場合、情報が漏えいしないように機密性の高い別室で個別に審査を行います。

3. 現地審査

現品の展示が困難な対象のうち、各審査ユニットの合議において「現地に行き、実際に確認をした方がよい」と判断されるものがあります。この場合、各審査ユニットより現地審査を応募者に要請し、実物を確認する審査を実施することができます。現地審査を実施する場合は二次審査期間内に応募者と調整を行った上で、実施します。

1. ベスト100候補の提出

ベスト100候補について、以下のルールに基づいて順位づけを行った上で「ベスト100候補連絡票」に必要事項を記載し、提出を行います。ユニットの2位までは、原則として必ずベスト100に入るものとします。

（記入方法）

リスト上位から「ベスト100に相応しいと思われる順」に「審査番号・応募対象名」を記載します。各審査ユニットから選出できるベスト100候補は8件を上限とします。必ず1位～8位の順位をつけてください。8件以上の候補をあげたい場合は、事務局を通じて正副委員長と協議することができます。

2. ベスト100候補の確認および選考会

二次審査会3日目に、審査委員長および審査副委員長、各審査ユニットのリーダーは、二次審査会場内に展示されているベスト100候補の現物確認を行います。

■ ベスト 100 選考会 **リーダーのみ**

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト 100 候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト 100 を選定する会です。

お願い事項

1. グッドデザイン・ベスト 100 の選定

参加者全員のディスカッション、投票等により「グッドデザイン・ベスト 100」を決定します。

ベスト 100 の選出方法

グッドデザイン・ベスト 100 は以下の手順によって選出します。

1. 各審査ユニットにおける順位づけの確認・調整

事務局はベスト 100 選考会が始まる前までに、選考会会場の壁面に全審査ユニットのベスト 100 候補について、順位づけを順守した上で掲示を行います。各審査ユニットのリーダーは壁面に掲示されたベスト 100 候補を一覧し、全体のバランスを確認します。

2. 各ユニット候補の上位 2 件の確認と内定

全ての現物確認の終了後、全ユニットの 2 位までについてベスト 100 内定の確認を行います。このベスト 100 内定について異議のある場合には、挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。票数が同数であった場合は、審査委員長の権限により決定します。

3. 第一回目投票およびラインナップの確認

上記「2」によって内定したものを除くすべての候補を対象に第一回目投票を行います。投票は 1 名あたり 20 件程度を上限とします。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果に基づき、事務局は仮に 100 件までの対象を得票数順に会場の壁面に掲示します。審査委員長、審査副委員長、リーダーは、ベスト 100 の全件を一覧し、「今年度のグッドデザイン・ベスト 100 としてふさわしいラインナップであるかどうか」という観点から検討し、ディスカッションを行います。

4. 第二回目投票およびベスト 100 全件の内定

「3」のディスカッションの結果、第一回目投票の下部 20 件程度と選外となったものを対象に第二回目投票を実施します。投票は 1 名あたり 10 件程度を上限とします。この際の上限值については、「4」と同様に審査委員長が判断を行います。

投票結果に基づき、得票数の高い順に総内定数が 100 件になるまで内定を行います。この時、ポーターライン上において得票数が同数となった場合は、ポーターライン上にある対象について再度投票を行い、ベスト 100 全件を決定します。この時、取り下げ等に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

■ 事務局による判定結果の確認

二次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。
審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議を行います。

■ 審査確定会 **必要なユニットのリーダーのみ**

二次審査会において各審査ユニットで出した審査結果について最終確認し、結果を確定する会です。

お
願
い
事
項

1. 二次審査の合否確認

各審査ユニットで出した合否結果を改めて見直し、その合否に間違いがないかを確認してください。また、他の審査ユニットの結果も閲覧し、それぞれにおいて異議がないかを確認してください。異議がある場合は、当該審査ユニット・リーダーと合議の上、合否を決定してください。合議において決着がつかない場合は、審査委員長・副委員長が最終的な判断を行います。これと同じ要領で事務局からの審議事項についても最終的な判断を行ってください。

■ 特別賞審査会

第一部：グッドデザイン・ベスト 100 プレゼンテーション審査 **リーダーのみ**

グッドデザイン・ベスト 100 に選ばれた受賞者によるプレゼンテーションを聞き、特別賞選考のために受賞対象についての理解を深める会です。このイベントは非公開で行われます。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン・ベスト 100 プレゼンテーションの聴講

ご自身のユニットおよび関連のユニットのベスト 100 受賞者によるプレゼンテーションを概ね 25 件程度聞き、質疑応答をしていただきます。

2. 他のユニット・リーダーとの共有

ご自身が聞いたプレゼンテーションの内容を、その場に不在だった他のユニット・リーダーの方々と共有します。

第二部：特別賞選考会 **リーダーのみ**

グッドデザイン・ベスト 100 に選定された対象の中から、さらに特筆すべき優れたデザインを特別賞として選定する会です。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン金賞の選出

投票および合議によりグッドデザイン・ベスト 100 の中からグッドデザイン金賞を選出します。

2. グッドデザイン大賞候補（ファイナリスト）の選出

投票および合議によりグッドデザイン金賞の中からグッドデザイン大賞候補を選定します。

3. グッドフォーカス賞の選出

投票および合議により金賞以外のグッドデザイン・ベスト 100 の中からグッドフォーカス賞を選出します。

金
賞
・
大
賞
候
補
・
グ
ッ
ド
フ
ォ
ー
カ
ス
賞
の
選
出
方
法

グッドデザイン金賞・大賞候補・グッドフォーカス各賞は以下の手順によって選出します。

1. グッドデザイン金賞 第一回目投票

グッドデザイン・ベスト 100 を対象に以下の基準にもとづき 1 名あたり 20 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

(選出基準)

概念や技術、品質等において、先進性と社会性を兼ね備えた、現在における極めて優れたデザイン (Best of Best) と認められるもの

2. グッドデザイン金賞の内定と第二回目投票対象の抽出

投票結果の「上位約 10 件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、金賞を内定します。また、「上位約 30 件」を目途にある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、第二回目投票対象とします。ただし合議の結果によっては得票数が低くても第二回投票対象とする場合があります。

3. グッドデザイン金賞 第二回目投票および内定

第二回目投票対象に対して 1 名あたり 10 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果から金賞が 20 件になるラインをもって金賞内定とします。同率になった場合は合議の上、決勝投票を行い内定します。

4. グッドデザイン大賞候補（ファイナリスト）の投票

グッドデザイン金賞を対象に以下の基準にもとづき 1 名あたり 5 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

（選出基準）

どの大賞候補が大賞に選ばれても「今年（この時代）を語る」べく「審査委員会が今、社会に対して最も訴求したいもの」と認められるもの

5. グッドデザイン大賞候補（ファイナリスト）の内定

投票結果の「上位 5 件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもって大賞候補（ファイナリスト）を決定します。

6. グッドフォーカス賞候補の選出と投票

グッドデザイン金賞内定候補を除くグッドデザイン・ベスト 100 から各グッドフォーカス賞について以下の基準にもとづき 1 名あたり 5 対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

（各特別賞の選出基準）

グッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン]

新たなビジネスモデルや新産業の創出、イノベーションの促進に寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

グッドフォーカス賞 [技術・伝承デザイン]

高度な技術や技能によって実現された、特に優れたデザインの製品であると認めるもの

グッドフォーカス賞 [地域社会デザイン]

地域社会の持続的発展や経済の活性化に特に寄与するデザインと認めるもの

グッドフォーカス賞 [防災・復興デザイン]

自然災害への防備または自然災害による被害からの復興に対して寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

なお、上記以外の賞を新設する場合があります。

7. グッドフォーカス賞の内定

投票結果の「上位 3 件」をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもってグッドフォーカス賞を決定します。

4-4. 共有（発表と表彰）

■ 評価コメント・アドバイスコメント執筆

応募者や一般生活者へ今後に向けた「気づき」を提供することを目的に実施する評価文です。それぞれのデザインに見出された価値や可能性を社会に伝え共有していくための重要な情報となります。二次審査会時に各審査ユニットで割り振られた担当に対してコメントの執筆をお願いします。

お
願
い
事
項

1. 評価コメントの執筆

1 受賞対象につき 200 字程度の評価コメントを執筆してください。評価コメントの多くは受賞した企業のプレスリリースやその他広報にも使用され、またグッドデザイン賞のウェブサイトに掲載され広く公開されます。

2. アドバイスコメントの執筆

1 対象につき 200 字程度のアドバイスコメントを執筆してください。コメントは応募者にのみ伝達されます。

■ 審査報告会（審査ユニット毎に開催）

受賞発表以降に開催する会です。審査を通じて感じたこと、新たに発見したことを応募者や一般生活者の方々に伝達することにより、応募者や一般生活者に新たな「気づき」を提供します。

お
願
い
事
項

1. 審査報告会への出演

事務局が司会役を行い、「担当ユニットの応募における全体的な傾向」「審査において重視した視点」「審査を通じて発見したこと」などを中心に質問をしますので、総評をお話ください。また、具体的な事例とそれらにおいてどのような議論がなされたかについてお話しただけると、より参加者の理解が深まります。

■ 受賞祝賀会および大賞選出会

グッドデザイン賞受賞者の受賞をお祝いする会です。同時にグッドデザイン大賞候補者（ファイナリスト）によるプレゼンテーションおよび投票が行われ、グッドデザイン大賞が決定します。

お
願
い
事
項

1. 受賞祝賀会への出席

祝賀会では多くの受賞者がオンライン配信を視聴します。受賞者に対して祝福の言葉やアドバイス、コメントなどをお話しいただき、受賞者に対して新たな「気づき」を提供できるよう、ご協力をお願いいたします。

2. 大賞候補（ファイナリスト）への投票

グッドデザイン大賞候補者（ファイナリスト）による 1 対象あたり 4 分程度のプレゼンテーションが行われます。これを聞いていただいたのちに、グッドデザイン大賞の投票を専用ウェブサイトで行ってください。投票方法の詳細は、別途お知らせいたします。

4-5. その他

■ その他 特記事項

1. 審査委員長判断による方法の変更について

上述したプロセスおよび方法について何らかの問題が生じた場合、または他の最適な方法が提案された場合など、現場の状況を鑑みた上で審査委員長の判断により変更が行われる場合があります。

5 審査委員会推薦

審査委員会推薦制度は、よいデザインを顕彰するために審査委員会の見識をもって応募を呼びかける制度として、2019年度より実施しています。

【審査委員会推薦のルール】

1. 推薦可能な対象

グッドデザイン・ベスト100に選定されうる優れたデザインであると審査委員会がその見識をもって推薦できるもの。ただし、審査委員自身がデザイン・コンサルティング等関与した対象を自薦することはできません。

2. 推薦された対象の取り扱い

「一次審査判定会議」において、推薦された対象を審査する審査ユニット内で検討し、当該審査ユニットで審査委員会推薦に値すると判断される対象を4件以内で選定します。審査委員長・審査副委員長は、各ユニットから挙げられた候補を確認し、「審査委員会推薦」対象を確定します。

3. 推薦により応募された対象の審査

審査委員会推薦となった対象について、事務局より応募勧誘を実施します。推薦により応募された対象は一次審査を通過したものとみなし、二次審査会から参加します。

なお、推薦により応募された対象であっても、二次審査は通常の応募対象と同等に審査します。

4. 費用

推薦により応募された対象は、二次審査料および受賞パッケージ料を免除します。

(展示の特殊なオプションを除く。)

審査委員会推薦スケジュール

